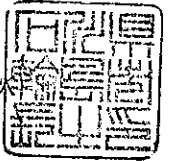


発 土 第 462 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局
局長 金 井 道 夫 様

輪島市長 梶 文 秋



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け 国道企第37号により依頼のありました「今後の道路行政についての意見・提案の提出」につきまして別紙の回答書のとおりご報告致します。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- ・ 費用対便益の大小、すなわち採算性が道路整備の根拠のように言われているが、慢性的な医師不足に加え、24 時間体制で高度な治療が可能ないわゆる第三次救急医療機関が存在しない能登地域(過疎地域)のような医療体制の脆弱な地域にとって、道路は正に命を繋ぐ道である。市民の生命・財産を守ることや防災は採算性以前の問題であることを能登半島地震が強く認識させた。
- ・ 臨時交付金制度を絶対に確保すること。但し、少子高齢化が急激に進む過疎地域では集落が広範囲に点在し、道路整備を「要望するパッケージ自体」を築き上げることができない。過疎地域や半島など地理的・地形的ハンディがある地域は特別枠の新設を要望する。
- ・ 能登半島地震により孤立する集落が発生した。残念ながら現在も、アクセス道路が一路線しかない「行き止まり集落」が多く存在している。代替道路等(画一的な規格の道路ではなくその地域に応じた)の整備のための高率補助事業の新設を要望する。
- ・ 公共事業の縮減等により、建設業者の機械の保有率が極端に減少している。除雪の機械及びオペレーターの確保に大きな不安がある。除雪機械を冬期間確保するための諸費用やリース代に対する補助制度の新設を要望する。
- ・ 多くの道路構造物が建設より 50 年近くが経過している。今後多額の予算が必要となる維持補修費の補助金制度の拡充を求める。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

石川県輪島市

○ 現状

- ・ 過疎化が進み地方が衰退する事により、農地や山林の荒廃を進行させ結果として国全体の損失に繋がる。過疎化対策の有効な手段の一つとして、若者の働く職場の創出のため、企業誘致が有効と考えるが奥能登への企業進出は伸び悩んでいる。
- ・ 奥能登活性化のための大きな柱の1つが自然や伝統文化を活かした観光産業である。能登半島地震で一時落ち込んだ入り込み客数も震災前の数字に戻ってきているが、平成3年の250万人をピークに大幅に減少しており、今後の誘客増加が地域の活性化に大きく影響すると考える。
- ・ 救急救命態勢の整った最寄りの高度医療機関は七尾市にあり医療の過疎化の深刻な輪島市街地からは、45km離れている。時間的には約70分の位置にあり、病院への時間短縮は救急・通常の通院を問わず、輪島市だけでなく奥能登地域の住民全体の生命・健康を守ることに繋がると考える。
- ・ 近年の公共事業の減少や景気低迷により建設業種の規模縮小や建設機械の整理が行われている。このことが冬期間の除雪機械の減少に繋がっており、除雪作業の遅延もまねいており日常生活にも大きく影響が出てきている。不足車両については冬期間のみの除雪機械の高額なリースにより車両を確保している。

○ 課題

- ・ 企業進出の大きな問題は、製造コストである。その1つに輸送コストの縮減と輸送時間の短縮が求められる。能登空港も開港したが、やはり大部分は道路輸送であり、道路交通網の整備が必要不可欠である。地方に行くほど時間が掛ってしまい、来訪意欲も薄れる。地方に行くほど道路料金を低価格にするなどの対策を要望する。
- ・ 北陸新幹線の開業を控え金沢・富山までの交流人口増加は現実となっているが、奥能登への人の流れをいかにして誘導するかが大きな課題であり、のと鉄道の廃止等もあり、奥能登への交通アクセスの中心は自動車であり高速道路ネットワークの早期完成が望まれる。
- ・ 能越自動車道が完成すれば約20分の時間短縮が見込まれ、命をつなぐ道となるため1日も早い完成を望む。
- ・ 専用の除雪機械を保有する国・県とは異なり、市の除雪機械は建設業者の所有する一般建設機械を借上げする事となるため、保有機械の減少は直接除雪機械の減少となる。この冬期間のみの高額リース車両に対し補助支援策を望む。

- ・ 輪島市及び奥能登の地域振興策はなんと言っても観光産業である。2014年、北陸新幹線の開業は今までにない巨大な輸送力を有することになる。その人々をいかに奥能登まで導くか、ここに当市や奥能登地域の目指すべき将来像がすべて託されている。平成15年7月に開港した能登空港の搭乗率6割以上を保っていることは、関東圏の人々の奥能登への関心の高さを示している。今後さらに奥能登の風光明媚な自然や他にはない伝統文化をより多くのメディアを利用し発信する。併せて「利便性を教示できる田舎」を目指すことにより交流人口の拡大を図り活性化に繋げたい。
- ・ 平成13年3月鉄道が廃線となり、唯一、自動車交通が交通手段となった奥能登地域にとって、東海北陸自動車道の全線開通や、北陸新幹線の開業など、奥能登への大きな追い風が吹いている今、その流れを止めないためにも、より一層の道路整備の促進が必要であり、その中でも大変大きな役割を担うのが能越自動車道の早期全線開通と痛切に感じている。
- ・ また、能登半島地震を体験して痛感した事は、やはり日常生活で最も必要なものの1つが生活道路の確保である。万一の有事の場合には、安全安心で住民生活に密着した地域にとって必要な代替道路の整備がどうしても必要と考える。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

石川県輪島市

○重点事項 ・安全安心な生活代替道路の整備 ・地域活性化のための高速基幹道路の整備	○代表事例 ・集落への進入道路が1本しかないため、2本目の代替道路を建設。 ・能越自動車道と国道バイパスの建設促進と県道改良の推進。	○期待する効果や評価等 ・災害時等により既存の進入道路が被災した場合、代替道路を利用し緊急車両等の通行が可能となり孤立を免れる事となり、日常生活の上でもより安心感が生まれる。 ・道路網の整備により、安全な移動ルートの確保と時間短縮による、観光客数の増加で地域活性化が図られる。 ・運搬の輸送コストと輸送時間の短縮による地域産業の活性化や企業誘致への条件改善に繋がり定住人口の増加も期待出来る。 ・奥能登にない救急救命態勢の整った医療機関への時間短縮が図られ救急患者へのより早い措置が可能となる。	○その他 気勝平町、世帯数214世帯、人口558人 金沢・富山方面からの交流人口の増加。 産業団地への企業誘致。 能登総合病院(七尾市)
---	--	---	--